

取扱説明書

多目的利用型ティラー

“バーディーティラー”

BX80



80-1761-000400



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社 **ISEKI** アグリ

目次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証・契約書・免責事項》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業するために》	2
《機械を他人に貸すときは》	6
《方向について》	6
《各部の名称》	7
《各部のはたらき》	8
《上手な運転のしかた》	10
運転前の始業点検	10
走行・旋回・変速・停止のしかた	13
エンジン始動・停止のしかた	10
トラックへの積み降ろしのしかた	15
《作業機脱着のしかた》	16
作業機の取り外しかた	16
作業機の取り付けかた	17
《作業のしかた》	18
作業の始めかた	18
作業の終わりかた	18
《長期保管のしかた》	19
《各部オイルの点検・交換・注油》	20
ミッションオイルの注油・点検・交換	20
各部への注油のしかた	21
エンジンオイルの注油・点検・交換	21
《各部の点検・整備・調整のしかた》	22
点火プラグの点検・調整のしかた	22
燃料コックの清掃のしかた	24
エアクリーナの清掃のしかた	22
そのほかの点検	24
タイヤ空気圧の調整のしかた	23
各部ワイヤ・ベルト調整のしかた	25
燃料パイプの点検のしかた	23
《仕様》	27
《工具袋・同梱品明細》	28
《消耗品明細》	28
《アタッチメント（別売品）の紹介》	29
《定期点検表》	30
《自己診断表》	31
《エンジンの不調とその処理方法》	32

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取り扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取り扱い方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

- a) 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
- b) 本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意ください。
- c) 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- d) 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

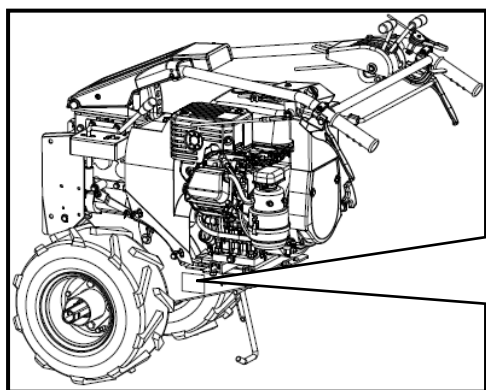
本製品は農業用機械として開発しております、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使い方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。

本製品は、日本国内でご使用頂くために、開発・生産されたものです。

海外の法規・規則・ルール・安全基準などに合致しておりませんので、品質や性能の保証、及び修理のご相談等を含むあらゆるサービスのご提供はできかねますので、ご了承願います。

《保証・契約書・免責事項》

- ・ 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
- ・ 本製品の保証期間は、新品購入から **1 年**、又は **50 使用時間**(請負業務用については **6 ヶ月間**、もしくは **50 使用時間**) の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
- ・ 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- ・ 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
- ・ 製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低**毎年 1 回**は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- ・ ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)]を併せてご連絡下さい。






種 類 Description	農用トラクター(歩行型)	
型 式 名 Model	B X 8 0	
製造番号 Serial No.	A A 0 0 0 0 0 0 0 0	
発 売 元	株式会社 ISEKI アクリ	
株式会社 オーレック OREC CO., LTD.		MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後 9 年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定 義
 危険	回避しないと、死亡または重傷を招く確率の高い危険な状態を示します。
 警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
注 意	回避しないと物的損害を引き起こす可能性がある潜在的な危険状態を示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》…重要危険項目…

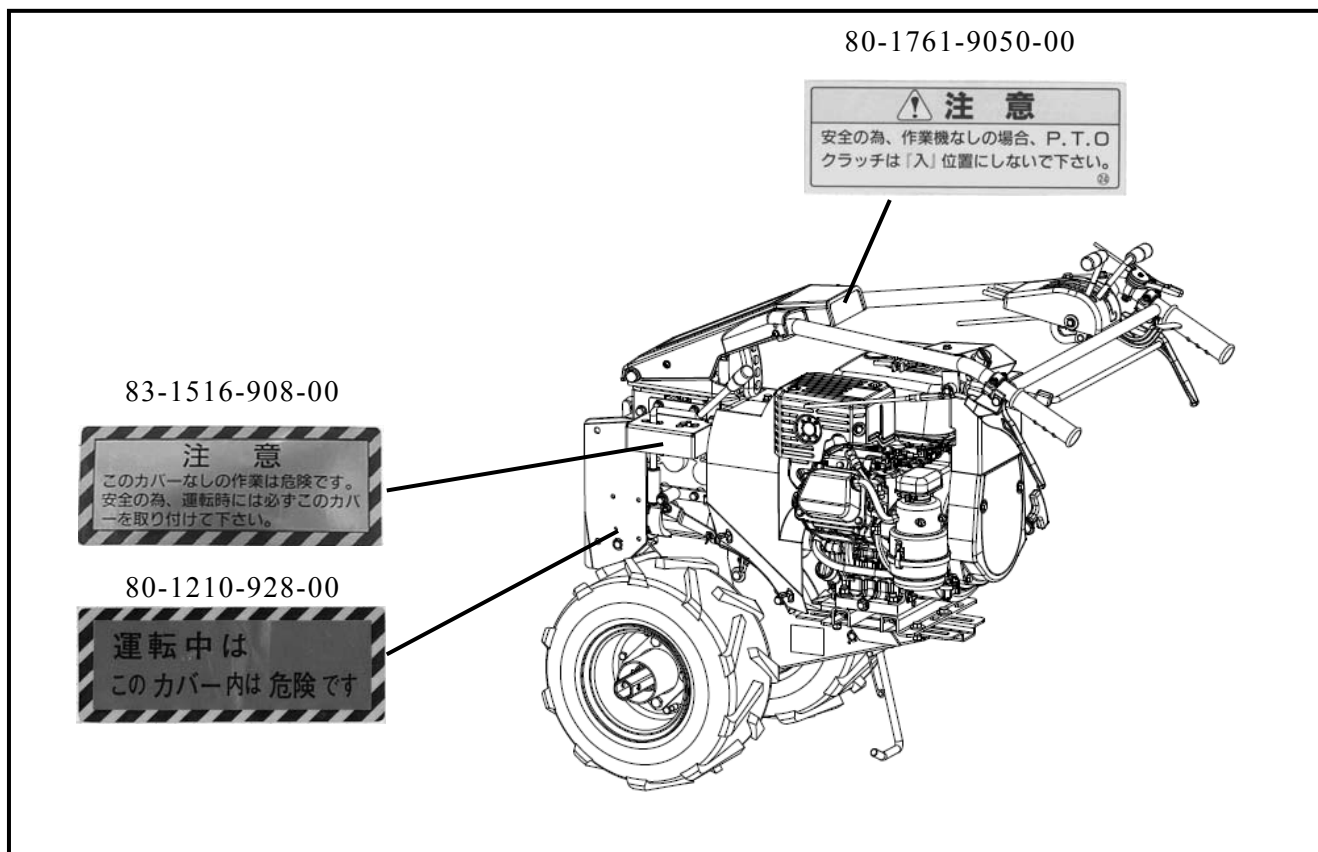
(1) 警告表示マーク

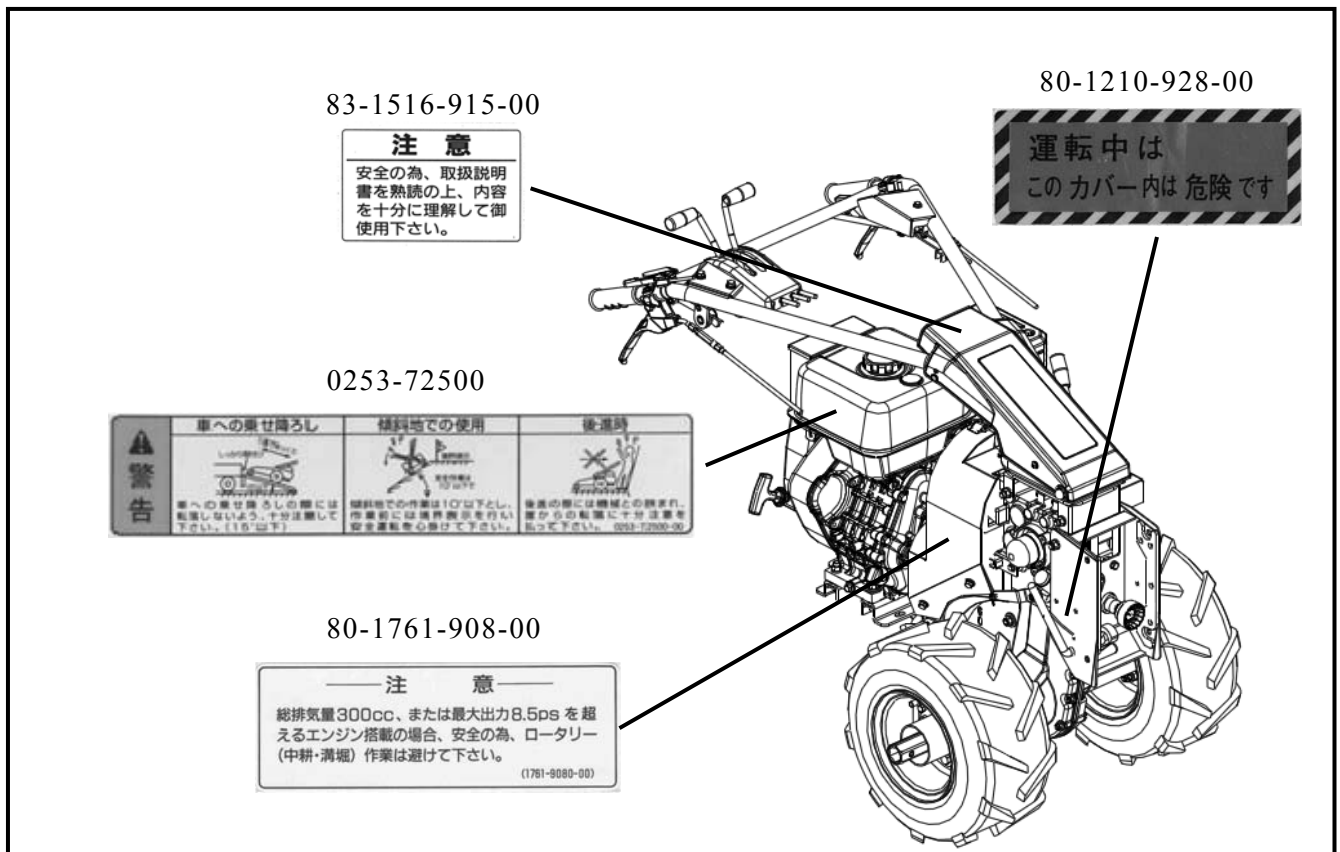
- 以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中から特に重要なものとして本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。

〈28 頁…消耗品明細 参照〉

危険

本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

▲ 警告 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止め(スパイク)のついた安全靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡、スネ当て等を必ず使用して下さい。

▲ 警告 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両や設備、建造物等の有形資産がない事を確認してください。また、周囲の安全を確認して、圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩など危険な場所や注意が必要な場所には目印などを設けて近寄らないでください。

▲ 警告 石やその他の異物は事前に取除き、除去不能な障害物などがある場合には、注意標識または作業禁止範囲を示す安全柵などを設けた後で作業を始めてください。また、このような圃場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行ってください。ナイフが欠けたり、石等の異物が飛散し危険です。

▲ 警告 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。安全のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- ・必ず、タイヤセットピンが確実に取り付けられているか点検し、不完全な場合は、確実にセットし直して下さい。

▲ 警告 排気ガスによる中毒防止のため、屋内ではエンジンを始動させないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かったの作業はしないで下さい。
- ・走行クラッチが「切」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤ調整をして下さい。

▲警告 10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°を超えると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用下さい。

▲警告 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

▲警告 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない環境では使用しないで下さい。

注意 安全作業の妨げとなるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、カバー類の切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては一切の責任を負いかねます。

注意 傾斜地での作業時、同方向に長時間車体が傾いていると潤滑不良になりエンジンに損傷を与える可能性があります。50m程度で折り返し同じ方向に機体が長時間傾かないようにお願いします。

・斜面での作業時はこまめにオイルの残量をチェックし、減っているようであれば注ぎ足してください。

（３）燃料給油時の注意

⚠危険 給油中及び作業中は火気厳禁です。又、燃料をこぼさないように注意し、もし燃料が周囲にこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。燃料への引火爆発の危険があります。

⚠危険 火傷や引火の危険があります。給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

（４）始動時の注意

- ・エンジンの周りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、P.T.Oクラッチを「切」位置にし、変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。
- ・周りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５）積み降ろし時の注意

〈15 頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、変速レバーは積み込み時は前進位置で、降ろすときには後進位置でどちらもゆっくり行いその他の位置には絶対入れないで下さい。

（６）作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

▲警告 冷却風の吸入口、シリンダ付近の草詰まりはエンジン焼付きや火災の原因です。

外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

▲警告 作業範囲内(半径 10m 以内)に人(特に子供)やペットが入り込まないよう、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径 10m 以内に近づけないでください。人やペットが近づいた時には直ちに作業を中断し、エンジンを停止してください。

▲警告 作業中、石・木株などに当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停

止したことを確認後、欠けや曲がりの有無を調べ必要であれば修正・交換をしてください。

▲警告 作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、直ちに運転を中止し、その原因を調べてください。異常な振動や音は故障による場合があります。

▲警告 作業中に障害物を発見した場合には、取除くか注意標識または作業禁止範囲を示す安全柵などを設けて、近づかないようにしてください。

▲注意 健康のため、1時間以上継続して製品を使用することは避けてください。必ず1時間毎に10分程度の休息を取るようして下さい。

▲注意 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近付けないで下さい。

- ・ P.T.Oクラッチは、人(子供含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作して下さい。(該当製品)
- ・ バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械と壁との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・ ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

(7) 作業終了後の注意

- ・ 本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。
- ・ 安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

▲危険 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年毎、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

▲警告 ベルト部の安全カバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいて下さい。

- ・ 取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取付けて下さい。

▲注意 品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。始業・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼下さい。定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意下さい。

▲注意 点検・整備又はシートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上(エンジン停止後10分以上)で行って下さい。

- ・ 走行(駐車)ブレーキのあるものについては安全の為使用時間が100時間に到達しない時点でブレーキシュー又はその全体を交換して下さい。
- ・ 走行クラッチ・P.T.Oクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。

《機械を他人に貸すときは》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

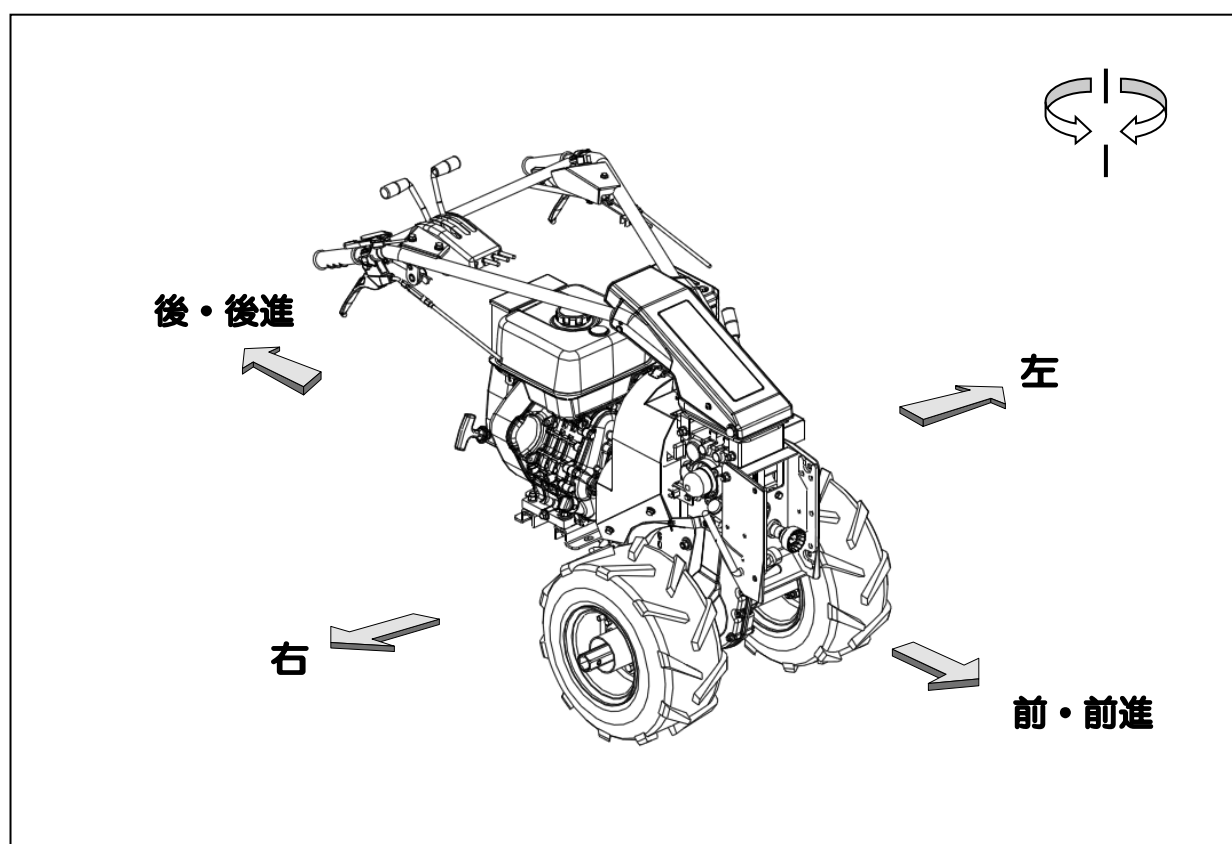
機械と一緒に「取扱説明書」も貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

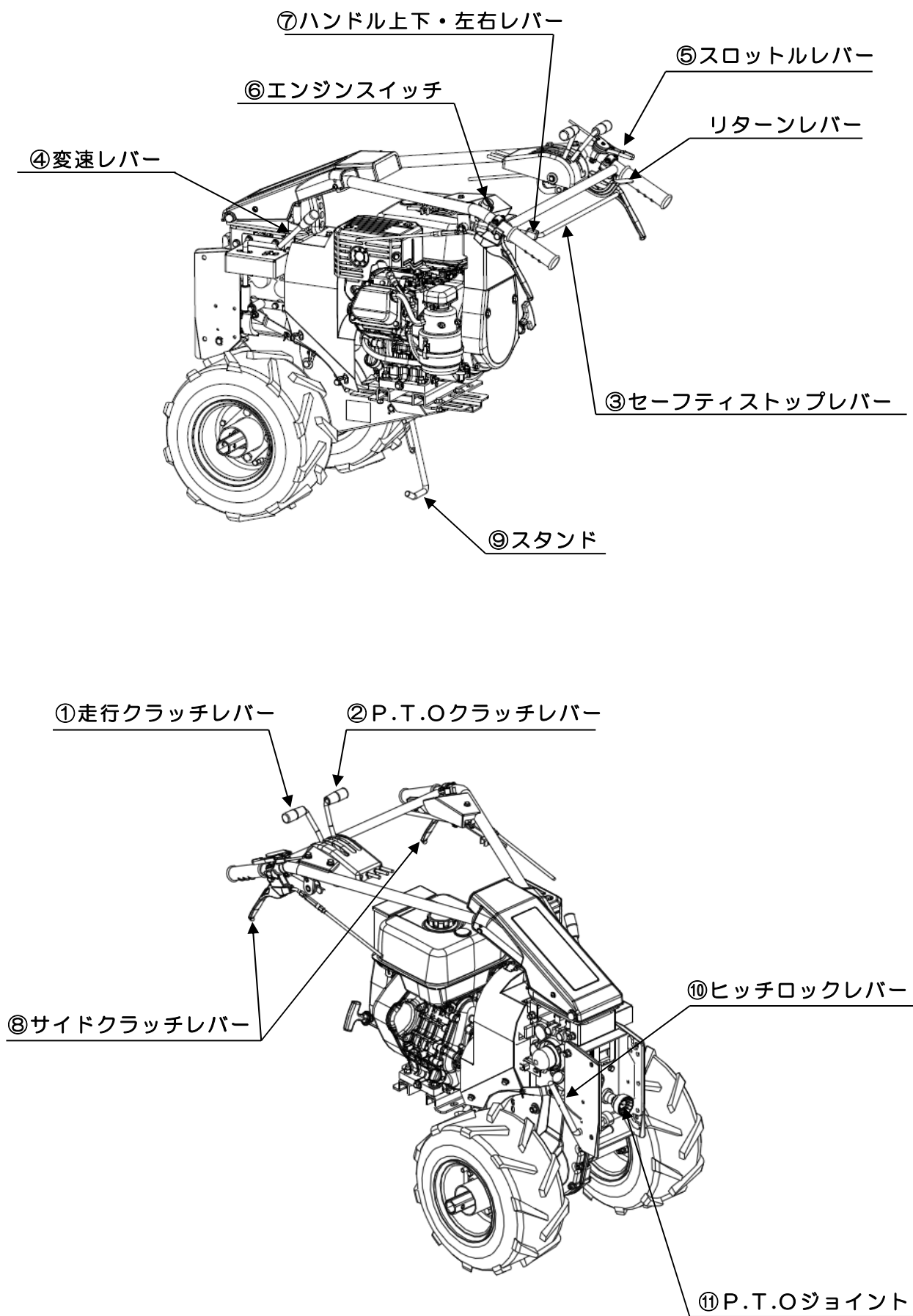
《方向について》

本機の前後左右は、下図のように作業員から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業員からみた方向で表します。



《各部の名称》



《各部のはたらき》

①走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前に倒すと「入」の状態、手前に引くと「切」の状態になります。

レバーの入れ換えによって一つの変速位置に対して二つの走行速度を選択することが出来ます。

- リターンレバーの採用により、ハンドルから手を離すことなくワンタッチで「切」の状態にすることが出来ます。

②P.T.Oクラッチレバー

エンジンから作業機への回転を断続させます。レバーを前に倒すと「入」の状態、手前に引くと「切」の状態になります。

- ブレーキ付き多板クラッチの採用により、P.T.Oクラッチレバーを「切」位置にすると作業機は停止します。
- 安全の為、旋回時・トラックへの積み降ろしの際にはP.T.Oクラッチレバーは必ず「切」位置にして下さい。

③セーフティストップレバー

緊急時にこのレバーを下に押し下げると走行クラッチレバーの解除ができます。

④変速レバー

走行速度の選択に使用します。変速レバーでの切り換えは２段階ですが、走行クラッチレバーの操作と併せて「前進」が①・②・③・④の４段階。中立「N」が変速ガイドに沿って一列に３カ所。「後進」は前進に同じく①・②の２段階です。

「前進」は「低速」①⇒②⇒③⇒④「高速」の順番で速度が速くなります。

参考；

変速ガイドのマークはハンドル側に立ち、“前方”に向いた矢印が「前進」、同じく“後方”に向いた矢印が「後進」を表示しています。“青色”が低速、“赤色”が高速を表示しており、走行クラッチレバーのマークの色と対応しています。

- 安全の為、操作は走行クラッチレバーを「切」位置にして本機を停止させた後、変速操作を行い、再度走行クラッチレバーを「入」位置にして作業を再開して下さい。

⑤スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

⑥エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行います。

⑦ハンドル上下・左右レバー

作業状況、又は作業者の体格に応じてハンドルの上下・左右の位置を調整します。

- ハンドル左右操作はハンドルを握って中心と右側に1ヵ所、左側に3ヵ所、合計5ヵ所で固定できます。

操作はハンドル回転板を固定している固定ボルト(M8×30)を外した後、レバーを親指でハンドル側に引き寄せて操作して下さい。その際、レバーをまず引き寄せてからハンドルを左右に振って下さい。同時に行うとレバー操作が極端に重くなります。

警告

装着される作業機が牧草関係の場合は、ハンドルは必ず中央位置で使用して下さい。

特に牧草モアーの場合はナイフが剥き出しの状態では高速回転する為、この部分に近づいての作業は非常に危険です。

- ハンドル上下操作は5段階調整できます。

操作はレバーを親指で押し下げて操作して下さい。

⑧サイドクラッチレバー

本機の進行方向を変える時に使用します。

旋回する側のサイドクラッチレバーを握り、ハンドルを押し下げて作業機部を地面より少し浮かせて旋回して下さい。

警告

旋回する場合には安全の為、必ずP.T.Oクラッチレバーは「切」位置にして作業機の回転が完全に停止した後に旋回して下さい。

⑨スタンド

作業機を装着しない場合のスタンドとして使用します。作業中スタンドは必ず解除しておいて下さい。

⑩ヒッチロックレバー

作業機を装着した際に本機と作業機側を固定するものです。

装着する際には「解除」側に、装着した後は「ロック」側に倒します。

作業機を頻繁に交換しない場合には、取り付け部を付属のボルトで固定しておけばより確実に固定することが出来、取り付け部にかかる負担を軽減することが出来ます。

⑪P.T.Oジョイント

本機側の回転を作業機側に伝達する箇所です。

《はじめに》

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期点検表」〈30 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備〈22 頁各部の点検・整備・調整のしかた参照〉をしてから作業を始めて下さい。



警告

始業点検及び整備を怠ると製品が破損する場合があります大変危険です。必ず始業点検及び整備を行ってください。



警告

本機に貼られている注意、警告マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた



警告

①閉め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。

… 閉め切った室内でエンジンを始動すると …

有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

②ガソリンエンジンを搭載していますので、本機の近くでのくわえタバコや裸火照明の使用はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。

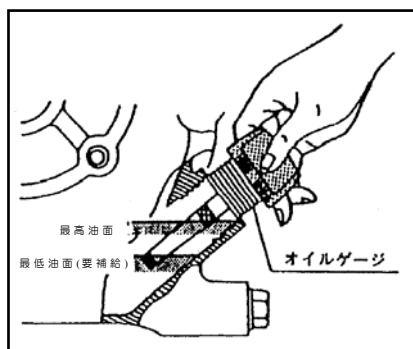
③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

④エンジンの暖機運転は、閉めきった部屋では行わないで下さい。



注意

■ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。



■ エンジン始動のしかた

①エンジンオイルを確認して下さい。

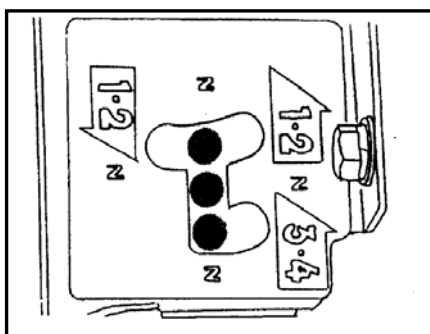
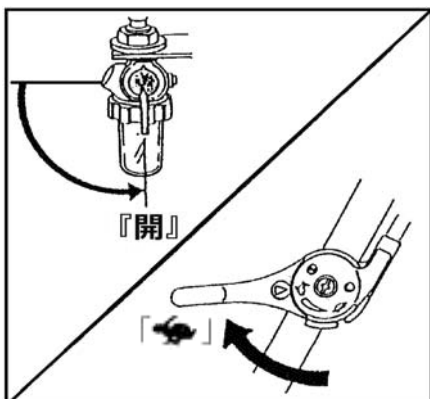
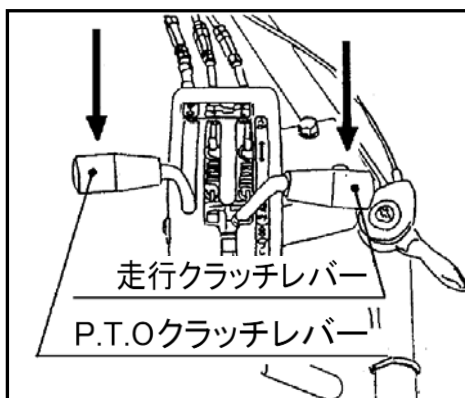
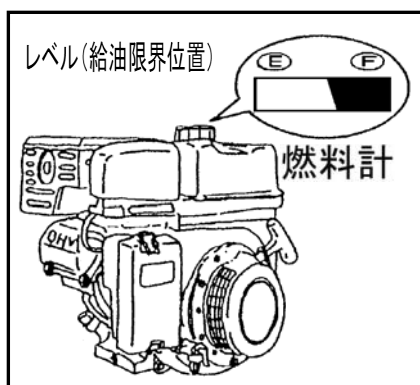
◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

参考：

- ・エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・使用するエンジンオイルは SD 級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（10° C 以上）	SAE30,SAE10W-30,又は SAE40
冬季（10° C 以下）	SAE5W20,又は SAE10W-30



- ② 燃料を確認して下さい。〈タンク容量は 27 頁参照〉
燃料計のゲージが「E」に近付いたら早めに、レギュラ
ガソリンを補給して下さい。

⚠ 危険


- 燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えているのを確認した後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合はきれいにふき取して下さい。

- ③ 走行クラッチレバー、P.T.O クラッチレバーは共に「切」位置にして下さい。

- ④ 燃料コックを「開 (ON)」位置にして下さい。

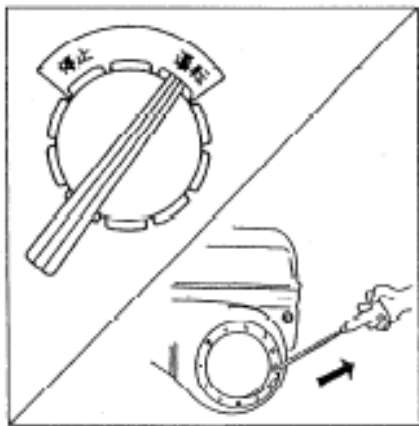
- ⑤ スロットルレバーを操作し、「アイドリング」位置にして下さい。

- ⑥ 変速レバーを中立「N」位置にして下さい。

- ⑦ チョークレバーを操作して、「全閉」  の位置に
して下さい。

参考；


エンジンの暖機が済んでいる場合には、チョークレバーの操作は必要ありません。



⑧ エンジンスイッチを「運転（ON）」位置にし、スタータノブを握り、ゆっくり引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。

- ・エンジン始動後は、直ちにスタータノブをゆっくりと元の位置に戻して下さい。




⑨ エンジン始動後はチョークレバーを一杯に押し込んで、「全開」  の位置にして下さい。

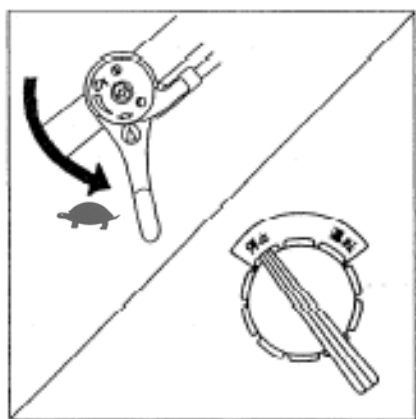
参考；


- ・エンジン始動後は、負荷をかけずに約 5 分間は低速側で暖機運転をして下さい。

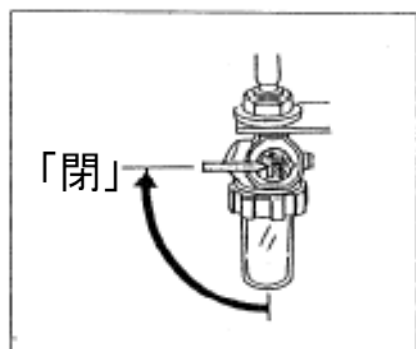
・暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命を延ばします。（新品から最初の 30～40 時間は、過負荷をかけないように控えめな運転をして下さい。）

・チョークレバーを「全閉」  位置のままで使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意下さい。

■ エンジン停止のしかた



① スロットルレバーを低速側「」位置にし、エンジンスイッチを「停止（OFF）」位置にしてエンジンを停止して下さい。

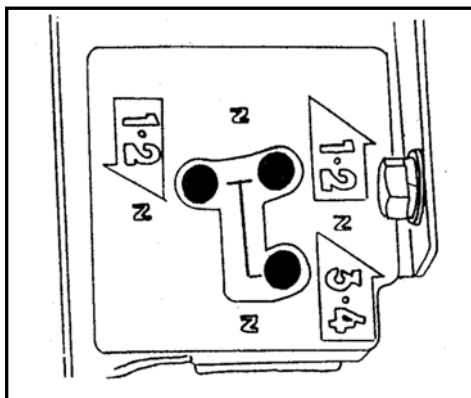


② 最後に燃料コックを「閉（OFF）」位置に戻して下さい。

走行・旋回・変速・停止のしかた

⚠ 警告

- ・所有者以外の人には使用させないで下さい。
- ・走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・勾配が 10° 以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。



■ 走行のしかた

- ① エンジンを始動させて下さい。
< 10 頁…エンジン始動のしかた参照 >
- ② 変速レバーを所要の変速位置に確実に入れて下さい。

⚠ 警告

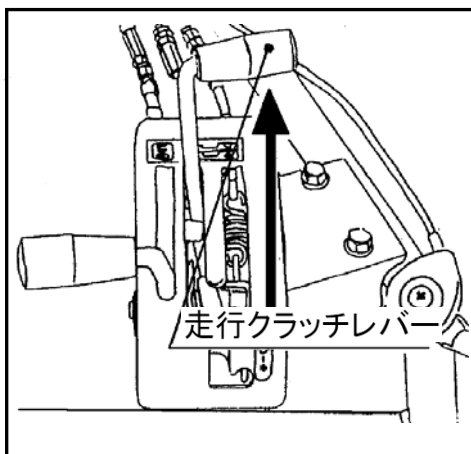
変速（ギアチェンジ）が不十分な場合、ギア抜けの恐れがあり大変危険です。

ギアが入りにくいときは無理に入れずに走行クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから再度、確実に変速を行って下さい。

参考；

「前進」は 4 段階で「低速」①→②→③→④「高速」の順番で速度が速くなります。「後進」が 2 段階で①→②の順です。（以上走行クラッチレバーの操作も含む）各変速位置の間には中立「N」位置が 3ヶ所あります。< 8 頁参照 >

- 安全のため「低速」側でスタートし、状況に合わせて徐々に「高速」側に変速するようにして下さい。



- ③ スロットルレバーを「🐇」と「🐢」との中間位置にし、走行クラッチレバーを“低速”側、あるいは“高速”側の変速位置の「入」位置まで入れると走行します。

■ 旋回のしかた

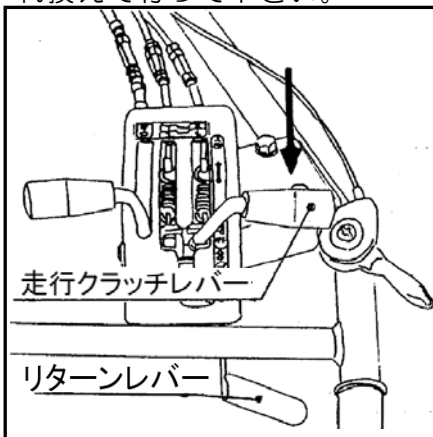
- 旋回する方のサイドクラッチを握り、ハンドルを振って行って下さい。

参考；

- ・ 旋回する場合には、ハンドル位置を高めにしてハンドルを下に押し下げ、作業機部を地面から少し浮かせた状態で行うとスムーズに旋回できます。
- ・ 周囲に十分注意しながら行って下さい。

■ 変速のしかた

- 「前進」①⇒②、③⇒④への切り換え、「後進」①⇒②への切り換えは走行クラッチレバーの入れ換えで行って下さい。



- ① 走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

- リターンレバーでワンタッチ解除できます。

⚠ 注意

- ・ 走行クラッチレバーを「入」位置のまま変速レバーの操作を行うと危険であると同時に故障の原因にもなりますので絶対に行わないで下さい。
- ・ 通常の“停止”の操作は走行クラッチレバーからリターンレバーで行い、セーフティストップレバーでの停止操作は緊急時のみ使用する様にして下さい。

- ② 変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ換えて下さい。

- ③ 走行クラッチレバーを再び所要の位置の「入」位置まで入れて再発進して下さい。

参考；前進「④」位置は移動専用とし、「④」位置での作業はしないで下さい。速度が速いため非常に危険です。

■ 停止のしかた

- ① 走行クラッチレバーを「切」位置にして本機を停止させて下さい。 <上記、変速のしかた参照>

- ② エンジンを停止させて下さい。

<12 頁…エンジン停止のしかた参照>

⚠ 警告

本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

- 本製品にはアタッチメント（別売品）としてブレーキが用意してあります。傾斜地での作業の際にはこのブレーキの装着をお勧め致します。

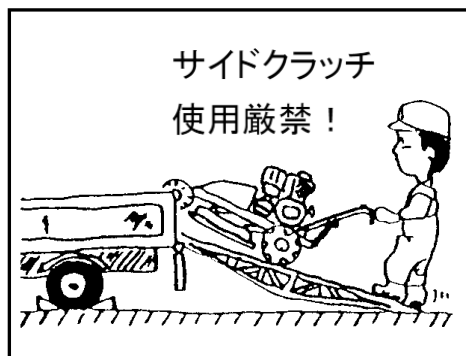
トラックへの積み降ろしのしかた

⚠ 警告

- ・運搬に使用する自動車は荷台に天井の無いトラックを使用して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギアをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
- ・本機の正面は危険ですので、真正面には立たないで下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろし時に、ブリッジの上で走行クラッチレバー、変速レバー、サイドクラッチレバーの操作は絶対にしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで確実に固定し、荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。
- ・本機単独、作業機単独での運搬は避け、必ずセットした状態で運搬して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしの際には、作業機部を地面から浮かせて行って下さい。作業機がブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

■ 積み降ろしのしかた

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。



②基準にあったブリッジを使用して下さい。

③スロットルレバーは「」、「」の中間位置にしてください。

④積み込む場合は前進「①」、降ろす場合は後進「①」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

参考； ブリッジ基準

ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。

- ・長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上のもの。
- ・幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- ・強度…本機の重量および作業者の体重の総和が十分に耐え得るもの。
- ・スリップしないように表面処理が施してあるもの。

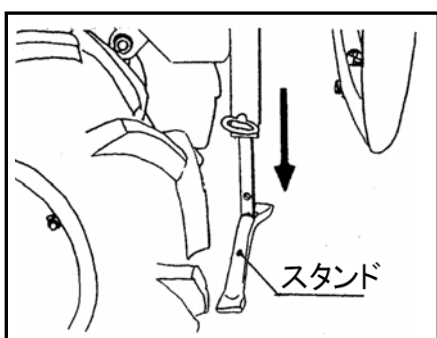
《作業機脱着のしかた》

- 本項目内では本機に装着される作業機の脱着方法について説明してあります。詳しくは装着される作業機に付属している取扱説明書をご覧ください。製品をお買い上げ戴いた販売店へお問合せ下さい。

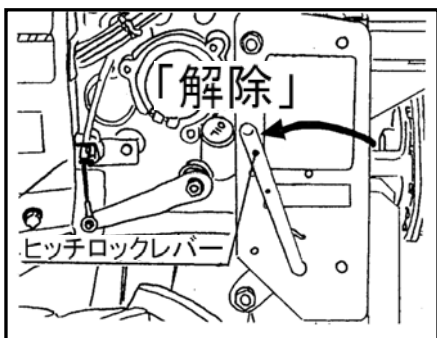
⚠ 注意

- ・作業着の脱着の際には必ず本機、作業機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、十分安全を確認して行って下さい。
- ・作業は本機の両サイドクラッチを握った状態で行うと比較的にできます。

作業機の取り外しかた



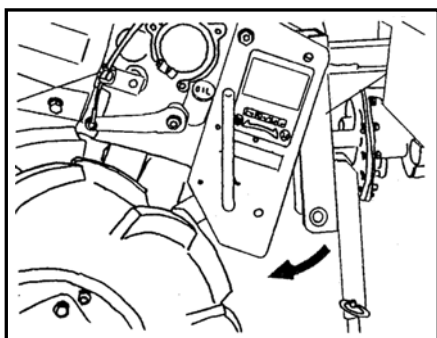
- ①本機のハンドルを一番低い位置にして、作業機側にスタンドがあるものはスタンドをセットして下さい。



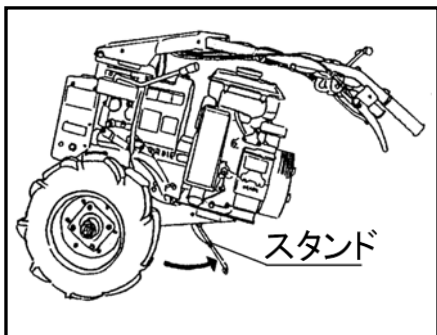
- ②ヒッチロックレバーを「解除」位置にして下さい。

参考；

ヒッチ部をセットボルトで固定している場合は、セットボルトを取り外しておいて下さい。



- ③本機のハンドルを上を持ち上げる様にして作業機と本機を切り離して下さい。

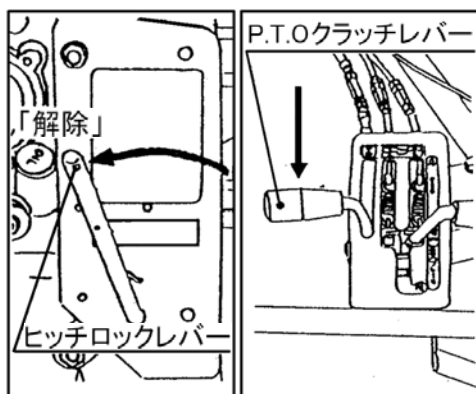


- ④本機を後方に移動させ、本機のスタンドをセットして作業の完了です。

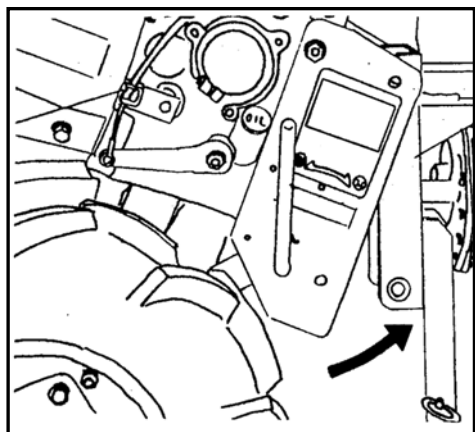
作業機の取り付けかた

参考；

本機に作業機をセットする場合には必ず本機と作業機は同一の平坦な場所で行って下さい。傾斜した場所や凹凸した場所では本機側と作業機側のヒッチの位置が合わず、セットすることができません。



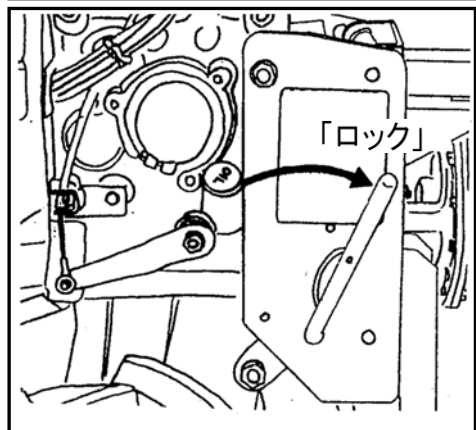
- ①本機のヒッチロックレバーが「解除」、P.T.O クラッチレバーが「切」位置にあることを確認して下さい。



- ②本機側のスタンドを倒し、“作業機の取り外しかた”と逆の要領で本機側のヒッチ上部で作業機側のヒッチ上部をすくい上げるようにして本機と作業機をセットして下さい。

参考；

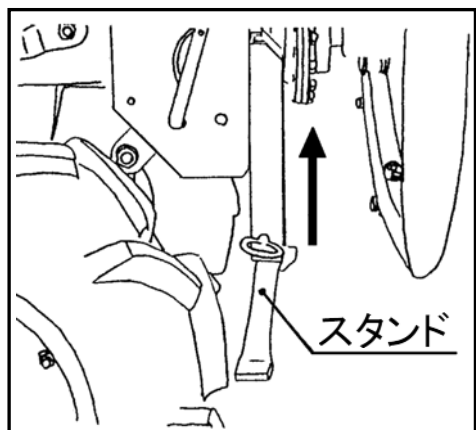
うまくセットできない場合は再度やり直すか、そのままの状態です P.T.O クラッチを「入」位置にし、スタータノブを少し引いてジョイント部を噛み合わせて下さい。



- ③ヒッチロックレバーを「ロック」位置にして作業機を固定して下さい。

参考；

さらにセットボルトでヒッチ下部を固定すればヒッチ部にかかる負担を軽減することができます。

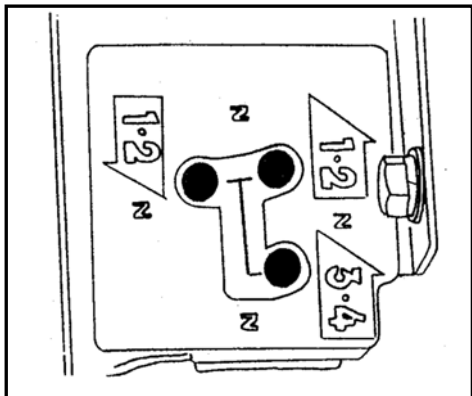


- ④作業機側にスタンドがあるものはそのスタンドを格納して下さい。

《作業のしかた》

●作業機のセット後は以下の要領で作業を始めて下さい。●

作業の始めかた

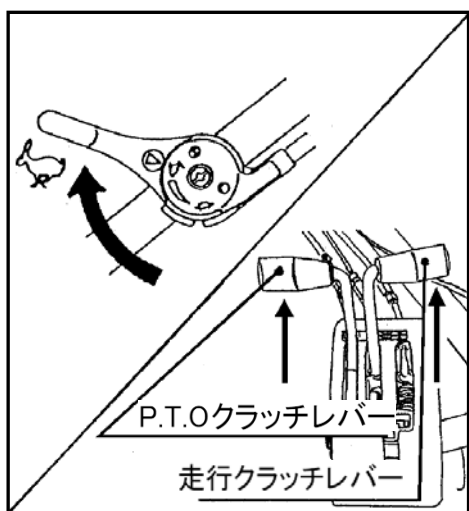



①エンジンを始動して下さい。

<10 頁…エンジン始動のしかた参照>

②変速レバーを所要の変速位置に確実に入れて下さい。

<13 頁…走行のしかた参照>



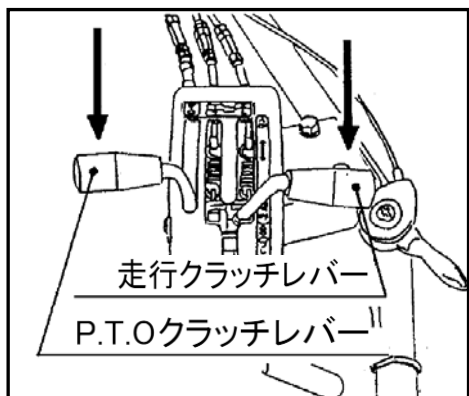
③スロットルレバーを「」位置にし、P.T.O クラッチレバーをゆっくりと「入」位置まで移動して下さい。

参考；

特に“ハンマーナイフ”“牧草モアー”での作業の場合、作業機のナイフが高速回転するために P.T.O クラッチレバーをいきなり「入」位置まで入れるとエンストする恐れがあります。

④走行クラッチレバーを“低速側”又は“高速側”いずれかの「入」位置まで倒して作業を開始して下さい。

作業の終わりかた



①走行クラッチレバー又はリターンレバーを操作して「切」位置にして下さい。

②P.T.O クラッチレバーを「切」位置にして作業機を停止して下さい。

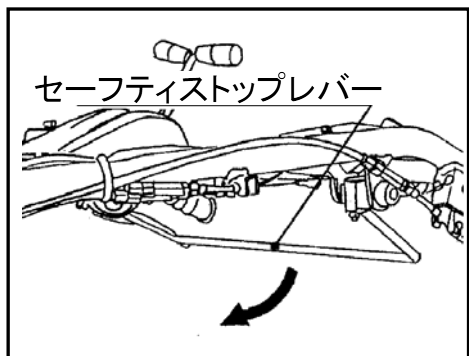
●セーフティストップレバーを下方方向に強く押し下げると、走行クラッチレバーを“解除”することができますが、これは緊急時にのみ操作し、通常の作業では使用しないで下さい。

●傾斜地での作業にはブレーキ（別売品）の装着をお薦め致します。

③エンジンを停止して下さい。

<12 頁…エンジンの停止のしかた参照>

●作業機の脱着時、本機から離れる時には必ずエンジンを停止して下さい。

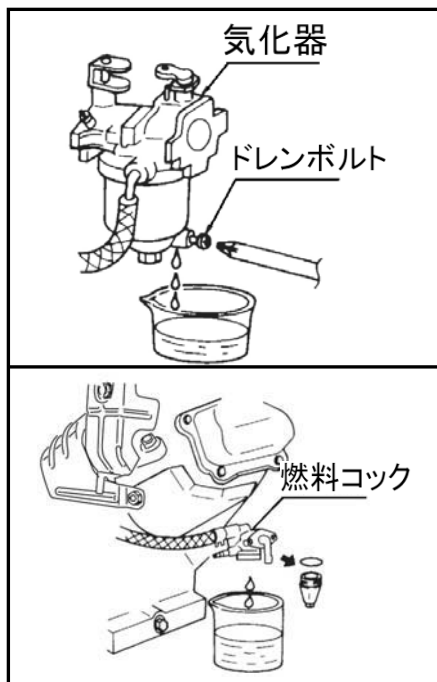


《長期保管のしかた》

⚠ 危険

★エンジンを停止して下さい。＜12 頁参照＞

- ・くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- ・本機を保管する場合には、堅い平坦な場所で水平にして下さい。
- ・燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラが冷えてから行って下さい。
- ・抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃してください。

③エンジンオイルを交換してください。＜21 頁…参照＞

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ、エアクリーナ、マフラ、気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥や草屑、ホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…泥やホコリが堆積したままで作業を続けると…

泥などによる目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因となります。

参考；

本機や作業機各部に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をしておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油》

⚠ 注意

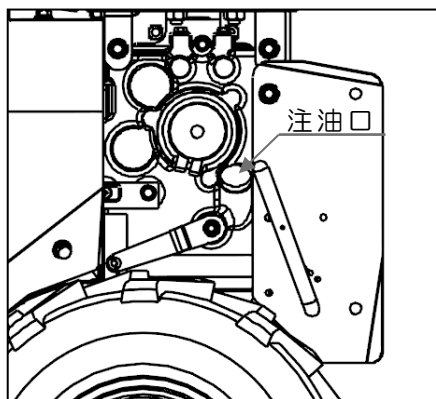
- ・出荷時本機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定の良質なオイルを指定の量だけ入れて使用して下さい。
- ・定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用する為に是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上)待ってから作業を行って下さい。

…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- ・エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確な量が示されません。

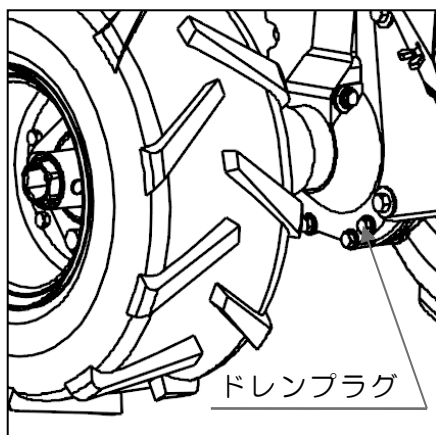
■ 交換後の廃油は適切な処理をして下さい。 ■

ミッションオイルの注油・点検・交換



◎注油…ほぼ注油口いっぱいまでです
ミッションケース上部の注油口よりミッションオイル(#90)
を 2.5ℓ 入れて下さい。

◎点検…
注油口よりミッションオイルが目視で確認出来ればほぼ規定
量のオイルが入っています。



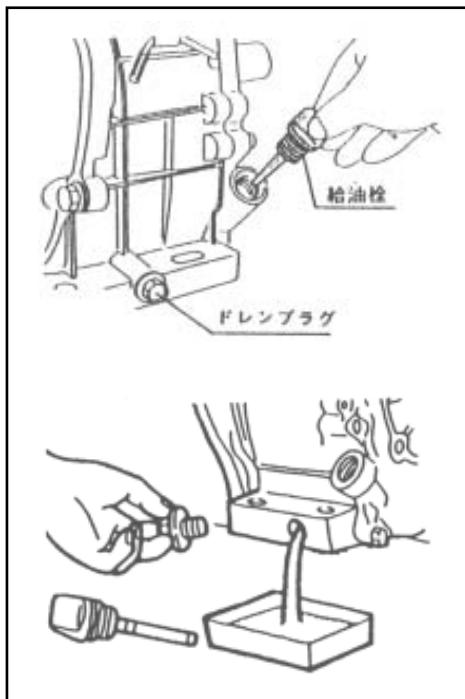
◎交換…
オイルを受ける適当な容器を用意し、初回は20時間目、そ
れ以降は100時間運転毎を目安にミッションケース左側下
部のドレンプラグ（排油口）を外して行って下さい。
ドレンプラグを確実に取り付けした後、上記に従ってミッシ
ョンオイルを注油して下さい。

参考；

排油時には、注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。

●作業機側のミッションオイルについては、作業機側の取扱説明書をご覧ください。

エンジンオイルの注油・点検・交換



◎注油・点検…

- ・毎運転前に〈10項…エンジン始動のしかた〉を参考にエンジンオイルの量及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には補給又は全量交換（下記参照）します。

◎交換…

- ・初回は5時間目、それ以降は25時間運転毎を目安に交換して下さい。
- ・オイルを受け取る適当な容器を用意した後、エンジン後部にあるドレンプラグ（排油口）を外し、クランクケース内のオイルを抜き取ります。
- ・ドレンプラグを確実に取り付けした後、〈10項…エンジン始動のしかた参照〉エンジンオイルを給油して下さい。

（使用するエンジンオイルの量については27項《仕様》参照）

参考；

排油時には、給油栓も取り外しておく、オイルが抜き取りやすくなります。

給油栓の締め付けがゆるいと、オイルがにじみでてくる場合があります。

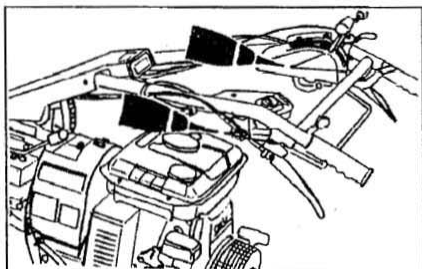
高負荷又は高温下での連続長時間使用の場合には、上記目安より早めの交換をお願いします。

各部への注油のしかた

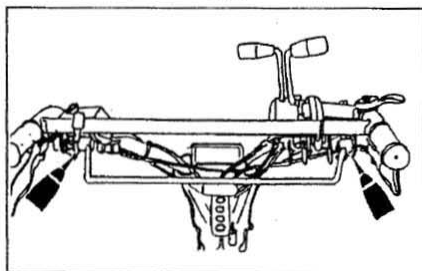
◎約30時間毎に下絵箇所にグリス又はエンジンオイル（30#）を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れによりサビ付や焼き付きの原因となり、操作が重くなって最悪の場合破損の原因となる恐れもあります。

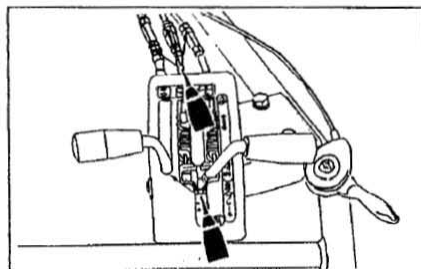
サイドクラッチワイヤ・レバー支点



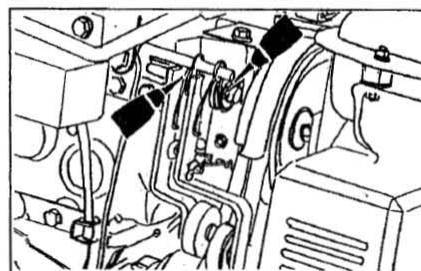
セーフティストップレバー支点



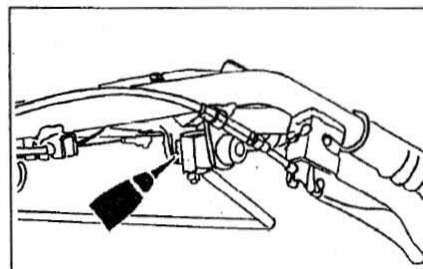
走行クラッチ・P.T.Oクラッチワイヤ・レバー支点



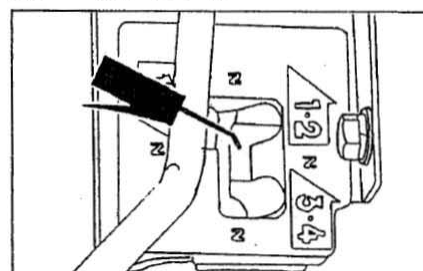
走行Wクラッチテンションアーム支点



ハンドル上下・左右ワイヤ・レバー支点

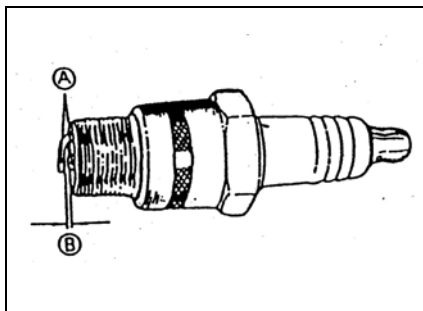


変速レバー支点（グリス）



《各部の点検・整備・調整のしかた》

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Aにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間Bを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考；

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

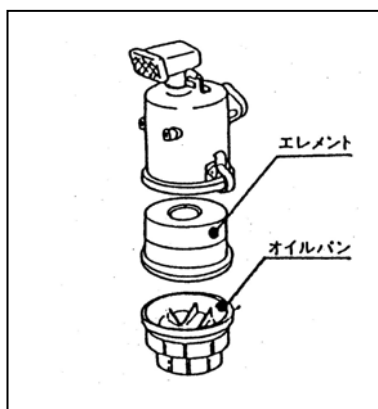
＜点火プラグ基準… 27項《仕様》参照＞

エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 警告

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に清掃して下さい。

…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやほこりを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。…



- ① クランプを外し、オイルパンを外して下さい。
- ② オイルパン内の泥、草屑等を灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)をレベル線まで入れて下さい。
- ③ エレメントは、白灯油（又は中性洗剤）で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおり組み付けて下さい。

注意

- ・ 洗浄時、エレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。

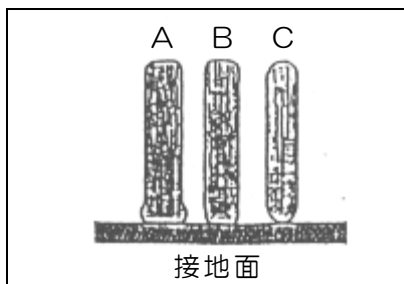
…エアクリーナの清掃、交換時期について…

	点検	清掃	オイル交換	エレメント交換
エレメント	----- 毎回始業前	25 時間毎	50 時間毎	300 時間毎

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

※ 怠るとエンジンの不調や破損につながり、大変危険です。

タイヤ空気圧の調整のしかた



◆タイヤの空気圧を、 1.4Kg/cm^2 に調整して下さい。空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

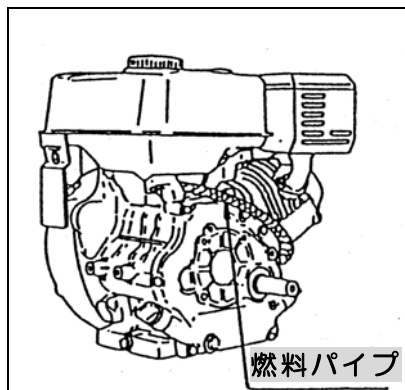
◆外観から判断する目安は左図の通りです。

A：不足

B：適正

C：過剰

燃料パイプの点検のしかた

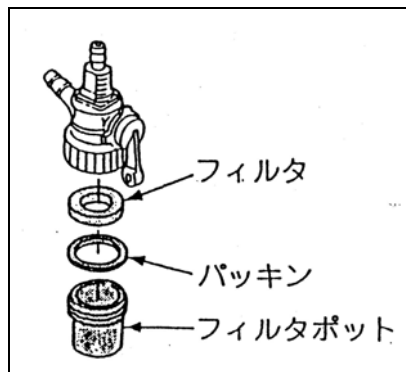


⚠ 危険

- ・ くわえたばこや裸火照明での作業禁止
- ・ 燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・ パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。
- ・ 交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料コックの清掃のしかた

- ・ 50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・ 作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- ・ 作業は燃料コックを「閉(OFF)」にしてから行って下さい。



⚠ 危険

- ・ くわえたばこや裸火照明での作業禁止
- ・ ガソリンやシンナー等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

- ① 燃料フィルタポットを外し、ポット内部及びフィルタを灯油で洗い、エアを使って乾燥させて下さい。
- ② 元のとおりに組み付けて下さい。

⚠ 注意

- ・ 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・ 各注油箇所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・ もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・ オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・ 各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。

その他の点検

- ① 各操作レバーが正しく作動するか確認して下さい。（毎回始業時）
- ② ベルト、ワイヤは初期伸びがありますので、新品から 2～3 時間運転後調整し直して下さい。
＜25 項…走行クラッチワイヤ調整参照＞
- ③ 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を確認して下さい。
- ④ 各部を十分になじませるため、最初の 2～3 時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤ 作業後の手入れ及び定期的な点検も忘れずに実施して下さい。

＜30 項…定期点検表参照＞

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

▲ 注意

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

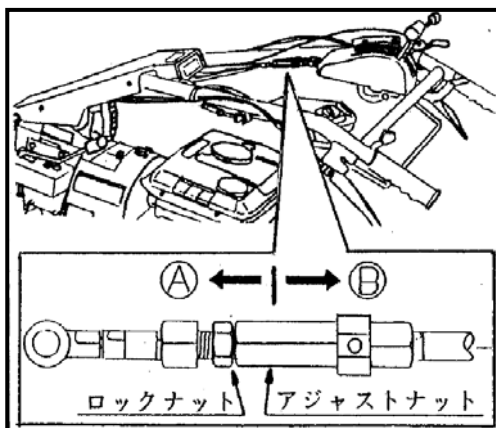


図 1

■ 走行クラッチワイヤ調整

図1を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ 走行クラッチを入れても負荷がかかるとベルトがスリップして本機が停止する場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

□ 走行クラッチレバーを切ってもベルトが付回りして本機が停止しにくい場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

参考；

走行クラッチワイヤの調整は、“低速側”“高速側”それぞれ単独で行い、走行クラッチを入れていない方のベルトは必ず停止することを確認して下さい。

クラッチが入っていない方のベルトがつき回りをするとベルトの寿命が極端に短くなるばかりでなく、本体各部に無理な力がかかり故障の原因となります。

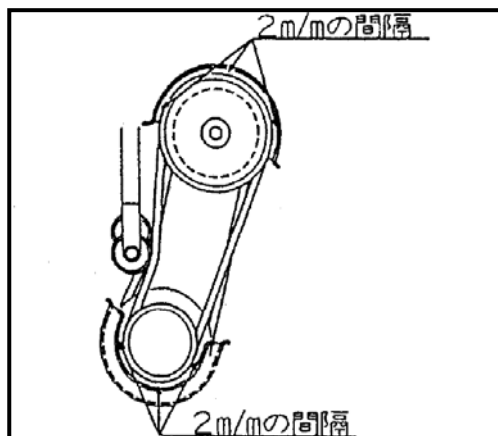


図 2

■ ベルト押さえ調整

図2を参考に新しい走行ベルトと交換した場合は以下の要領で走行ベルトのベルト押さえを調整して下さい。

□ ベルト押さえの上、下を取り付ける際には、ベルトを張った状態で走行ベルトと上下のベルト受けの隙間が全周に渡って約2mm程度となるように調整して下さい。

② 上記の走行クラッチワイヤの調整要領に従って調整を行って下さい。

参考；

走行ベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。

調整時期は以下の通りです。

走行ベルトサイズ	…	SA26-W800×2本
調整時期	…	初回：20時間目 以後：100時間運転毎

- ・ 走行クラッチレバーには「切」位置で3～5mmの遊びを持たせておいて下さい。
- ・ ベルトカバーは中の草屑等を取り除いた後、必ず装着して使用して下さい。
- ・ 調整後はロックナットでアジャストナットを固定して下さい。
- ・ 装着の方法が分からない場合は、お買い上げの販売店までご相談下さい。

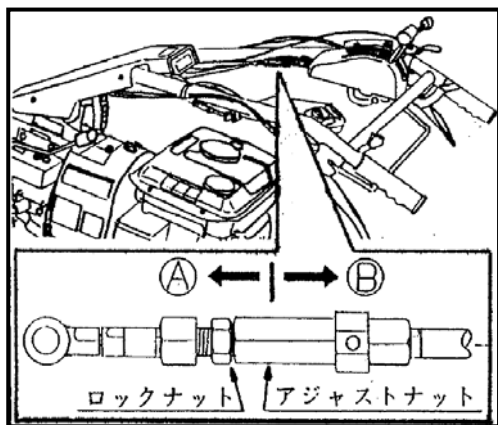


図 3

■ P T Oクラッチワイヤ調整

図 3 を参考に P T Oクラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ P T Oクラッチレバーを入れても負荷がかかると作業機の回転が停止する場合

…アジャストナットを A の方向へ…

□ P T Oクラッチの切れが悪い場合。

…アジャストナットを B の方向へ…

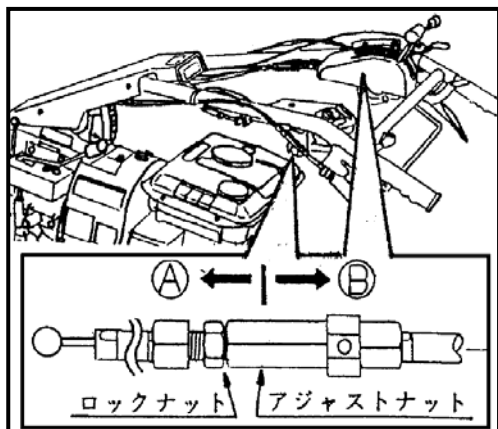


図 4

■ サイドクラッチワイヤ調整

図 4 を参考に サイドクラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ サイドクラッチレバーを戻しても、駆動がうまくつながらない場合

…アジャストナットを A の方向へ…

□ サイドクラッチレバーを握っても駆動が切れない場合

…アジャストナットを B の方向へ…

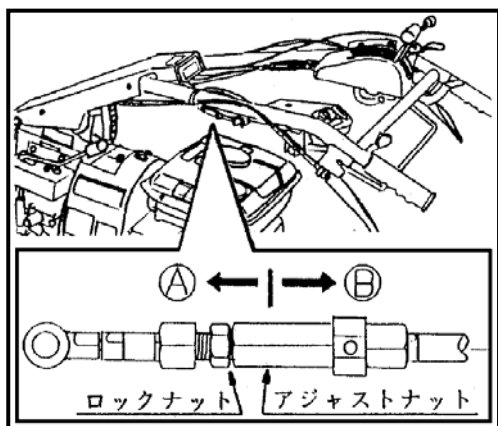


図 5

■ ハンドル上下ワイヤ調整

図 5 を参考に ハンドル上下ワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ レバーを操作してもハンドルが上下できない場合

…アジャストナットを B の方向へ…

□ レバーの操作をしなくても負荷がかかるとハンドルが上下する場合

…アジャストナットを A の方向へ…

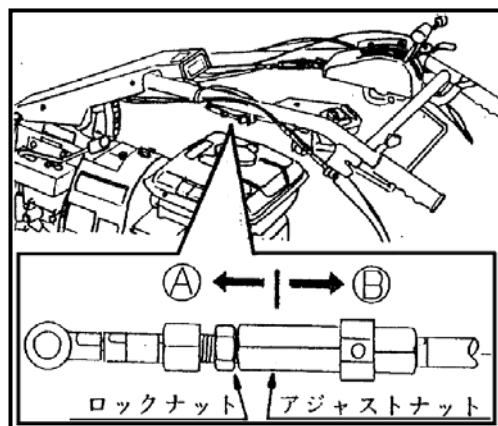


図 6

■ ハンドル左右ワイヤ調整

図 6 を参考に ハンドル左右ワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ レバーを操作してもハンドルが左右できない場合

…アジャストナットを B の方向へ…

□ レバーの操作をしなくても負荷がかかるとハンドルが左右する場合

…アジャストナットを A の方向へ…

- 各レバーにはいずれも 3 ～ 5 mm の遊びを持たせておいて下さい。
- 調整後はロックナットでアジャストナットを固定して下さい。

《仕様》

名 称		バーディーティラー	
型 式		B X 8 0	
全長×全幅×全高 (mm)		1,030×780×920	
走行ベルト		SA26-W800×2本	
重 量 (kg)		9 5	9 6
タイヤサイズ		16×700-8B (φ400mm)	
車輪外幅 (mm)		780	
ハンドル上下・左右		ワンレバーワンタッチ可変式	
作業機脱着方式		ワンタッチE.H機構	
作業機駆動方式		I.P.Cシステム	
操 向 装 置		サイドクラッチ(ボールスプライン)	
走行クラッチ方式		ダブルベルトテンション	
速 度 (km/h)	前 進	① 0.85 ② 1.75 ③ 3.19 ④ 6.59	
	後 進	① 0.85 ② 1.75	
作業能率 (a/h)		作業機による	
エ ン ジ ン	名 称	メイキ	
	型 式	GB290LN	GB300LN
	最大出力 (P S)	8.0 (5.9kw)	10.0 (7.4kw)
	潤滑油量 (ℓ)	1.0	1.2
	始動方式	リコイル	
	点火プラグ	BP5ES	
	燃料タンク容量 (ℓ)	6.0	

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個 数	備 考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具		1	エンジン付属品
④	両口スパナ	10×12	1	
	〃	14×17	1	
⑤	保護メガネ	0328-76100	1	
⑥				

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部品番号	個数／台	備考
①	走行ベルト	80-1761-982-00	2	S A 26-W800
②	Wテンションワイヤ	83-1761-934-10	2	
③	サイドクラッチワイヤ	80-1761-963-10	2	
④	P T Oクラッチワイヤ	83-1761-949-20	1	
⑤	ハンドル上下・左右ワイヤ	83-1761-965-10	2	
⑥	ジョイントダンパ	80-1751-512-00	1	
⑦	多板クラッチアッシ	80-1751-530-20	1	
⑧	危険マーク㊶	80-1210-928-00	2	運転中は…
⑨	警告マーク	0253-72500	1	車への載せ降ろし…
⑩	注意マーク	83-1516-915-00	1	安全の為…
⑪	〃	80-1761-908-00	1	総排気量 300cc…
⑫	〃	80-1761-905-00	1	安全の為、作業機無し…
⑬	〃	83-1516-908-00	1	このカバーなし…
⑭				
⑮				
⑯				
⑰				
⑱				
⑲				
⑳				

《アタッチメント（別売品）の紹介》

品 名	型 式	コード No.	備 考
ホイルチューブ	T 0	5-1712-169-000	長さ 400mm×2 覆土用
//	T 1	5-1751-165-000	長さ 270mm×2
//	T 2	5-1711-165-000	長さ 190mm×2
ブレーキ組	B S 1	5-1711-310-000	走行・駐車ブレーキ
タイヤセット	4 0 0 - 7 B	5-1711-120-000	幅 111mm、φ400mm、ボス付
ワイドタイヤセット	1 6 × 7 0 0 - 8 B	5-1751-120-000	幅 180mm、φ400mm、ボス付
リヤーヒッチ	B	5-1711-530-000	
バランスウェイト	A	5-1310-531-000	リヤーヒッチと併用
鎮圧ロール	S E - R 2	5-1711-195-000	幅 470mm 外径 320mm×2 麦踏み用
タイヤセット	4 0 0 - 8 B	5-1711-125-000	幅 111mm、φ440mm、ボス付

※詳しくは販売店までお尋ね下さい。

《定期点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、常に安全な状態であるようにこの「定期点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎回点検を行うようにして下さい。

項目		点 検 内 容		点検実施時期		
				始業	月次	年次
原 動 機	本 体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、緩み、汚れ	損傷なく、取付部に緩み、著しい汚れはないか。	○	○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。＊（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		＊⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○
		＊⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。ボルト・ナットに緩みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
		③燃料の量・質。	燃料は入っているか、又質は良いか。	○	○	○
	電気装置	電気配線の接続部の緩み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカパーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカパーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積。	マフラ周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○
伝達装置	ベルト	①緩み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
車 体	車 体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの緩み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
走行装置	レバー、ワイヤ タイヤ (ホイール)	①レバー、ワイヤの損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
		②空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		③亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		④金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		⑤ボルト・ナットの緩み、脱落。	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○	○
		⑥ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》



もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
ベルトがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	作業機カバー内に異物が詰まっている。	作業機カバー内を清掃する。
	プーリへの草の堆積。	プーリをきれいに清掃する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
車輪(タイヤ)がスリップする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	作業機カバー内に異物が詰まっている。	作業機カバー内を清掃する。
	圃場が軟弱。	圃場が乾くのを待ってから作業を始める。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	作業機回転軸周りに異物が堆積、又は巻きついている。	異物を取り除く。
負荷がかかると作業機が停止する。	多板クラッチが焼けている。	多板クラッチを交換する。
	回転が伝達していない。	P.T.Oクラッチワイヤを緩める。
作業機が停止しない。	多板クラッチが付き回りしている。	P.T.Oクラッチワイヤを張る。
作業機を作動させると異音が出る。	ジョイントダンパの磨耗。	ジョイントダンパを交換する。
	多板クラッチが焼けている。	多板クラッチを交換する。
作業機停止時に異音が出る。	多板クラッチのブレーキが滑っている。	P.T.Oクラッチワイヤを張る。
作業機がうまくセットできない。	P.T.Oジョイントが噛み合っていない。	ジョイント位置をずらす。
多板クラッチより煙が出る。	半クラッチ状態になっている。	P.T.Oクラッチワイヤを調整する。
		多板クラッチを交換する。
ハンドルの左右ができない。	回転板がボルトで固定されている。	固定ボルトを取り外す。
ベルトが早期に切断する。	ベルトが付き回りしている。	ベルト押え(上)or(下)を調整する。
	ベルト押え(上)or(下)がベルトと接触している。	
P.T.Oクラッチを入れるとエンジンが停止する。	P.T.Oクラッチを急激に「入」位置にした。	P.T.Oクラッチ「入」⇄「切」は徐々に行う。

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
始動困難な場合 (始動しない場合)	エンジンスイッチが「始動」の位置でない。	エンジンスイッチを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	* 点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	* リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	* 点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ * 印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※ わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。